

令和4年11月19日

# 南の風 459

南部地区ミニバスケットボール連盟  
会長 藤原 敬一

458号の続きです。

エイトオフェンスの紹介です。読者の皆さん「エイトオフェンス」あるいは「エイトクロス」という呼び名をご存じだと思います。エイトクロスと言えば、林永甫ヘッドコーチの名前を想い出します。

元WリーグのJALラビッツのヘッドコーチでWリーグ準優勝3回、2005年全日本総合皇后杯では見事優勝を果たしました。今でもマンツーマンオフェンスとして、多くのチームが採用しています。

今回は簡素化した、エイトオフェンスを取り上げます。

エイトオフェンスの良さは、

- ①取り組むのが容易であること
- ②小さいチームでもペイントを攻めやすいこと
- ③U15世代で、パススキルを習得するのにも適している

アライメントは、2ガードの4アウト1インです。フロントのハーフコートで進めます。リングに向かって、フリースローの半円の上の高い位置に、1が右トップ、2が左トップとします。3がやや高い右ウイング、4がやや高い左ウイングです。5は4と同列のスロットラインにポジション取りをします。

2がボールを持ち、1にパスです。そのとき5が4のDEFにスクリーンに行きます。4はペイントにカットします。1からパスが来ればシュートです。1は4にパスできなければ、アングルを変えるために3にパスします。パスが入ればシュートです。このとき、パスした1は必ずアウェーして2とポジションをチェンジします。

だめなときは、4が3のDEFにスクリーンに行きます。3はポジションチェンジした2にパスして、4のスクリーンを使ってペイントカットします。2は1にパスします。1は4にパスするか、だめなら開いてウイングに出た5にパスします。5は4に入ればパスします。だめならまた、ポジションチェンジした2にパスして同じ動きを繰り返します。

このようにして、両ウイングの3と4、5がスクリーン掛けて外に開く。スクリーンを使ってカットする。この一連の動きが8の字のように見えるため、エイト、あるいはエイトクロスと呼ばれています。

林永甫コーチが行っているエイトクロスは、もう少し複雑なのですが、簡素化すれば上記のようになります。

このオフェンスのすぐれている一つ目は、ドリブルが上手な選手や個人スキルが高い選手がいなくても、仕組みがすぐれているので戦術の組み立てが容易であり、得点が取りやすいことです。

二つ目は、単純なオフェンスなので相手に読まれやすいと思いがちですが、コーチが選手に指導するときに教えやすいこと、選手も練習で取り組みやすいことです。そしてU15の選手にとっては、何より試合での再現性が高いことがメリットです。

ドリブルが多くなりがちなミニバス世代には、無用なドリブルを使わずに攻めることが出来、パスの出し方やタイミングを学べる価値あるオフェンスだと思います。